さんぽみち

鵜の木地区地域情報紙

平成18年1月1日号　第44号

発行：わがまち大田鵜の木地区推進委員会

編集：鵜の木地区　地域情報紙編集委員会

事務局：鵜の木特別出張所　電話(3750)4241　FAX(3750)2418

新しい年にふるさとを想う

新年あけましておめでとうございます。
「さんぽみち」新年号に寄せて、各町会より、それぞれのふるさとについてご寄稿いただきました。

南久が原一丁目町会

ふるさとを歌う詩は多い。心に響き安らぐからだと思う。安部公房の「終わりし道の標べに」の一節に、人は生まれ故郷を去ることはできる、しかし無関心になることはできないと記されている。常に心の中で故郷が存在し拠り所になっているからである。私のふるさとは、両親の田舎と交錯していた時があった。田園風景を身近に感じていたからだと思う。振り返ると、私も子ども達も、生まれ育った街「久が原」がふるさとなのである。

脳裏に浮かぶ静かな住宅街、一歩街中に入ると活気ある商店が並ぶ。その中で静かに存在する神社やお寺、子どもの頃遊んだ六郷用水や多摩川、心に深く情景が残る。改めて「ふるさと久が原」を胸に刻み、素晴らしいこの街を自然のまま未来に残し、伝えようと心に誓ったところである。

（蓮池　攻）

千鳥北町会

大晦日、除夜の鐘が鳴り出すと、祇園さん、八坂神社はおけら参りの人でたいへんな賑わいになります。おけらは薬草で、おけらを使ってつくるかがり火は疫病を祓うと言われ、参拝客は灯篭から、この火を竹の繊維で編んだ「吉兆縄」に移し、火が消えないように縄をぐるぐる廻しながら家に戻ります。持ち帰った火で、父が神棚の灯明を灯し、かまどに火をつけてお雑煮を炊きはじめる。京都のお雑煮は白味噌仕立てで、縁起の良い野菜と白い丸餅をじっくり煮ます。昔から三が日のお雑煮作りは男性の仕事です。普段は忙しい女性を休ませてあげようという優しい気持ちなのでしょう。男の人は赤塗り、女の人は黒塗りのお椀で家族揃ってお祝いするのが楽しみでした。元日の朝、晴れ着を着せてもらい家族揃って初詣に出かけます。氏神様の粟田神社、天台宗の門跡寺院「青蓮院」から浄土宗の総本山「知恩院」へと廻ります。左甚五郎の忘れ傘が有名な知恩院さんの廊下を歩くと鶯の鳴く音が聞こえて、それがおもしろく何回も往復したものです。昔、親達が連れて行ってくれたように、孫達を連れてあの心に残る風景を訪ねてみたいなとつくづく思います。

（岡田　八重子）

千鳥南町会

長野県松本市がふる里です。五男三女の兄弟で大家族です。私は上から二番目。学校を卒業後十六歳で上京。下丸子の目黒計器に入社。仕事は温度計、回転計器等を作った。昭和十九年戦争の最中で私も二十一歳となり、この年の九月、横須賀の海軍第二海兵隊に入隊。藤沢市下土棚の海軍電測学校で一年学習。佐世保に横須賀の輸送艦が入港。それに乗船の予定がすでに出港、沖縄への出陣はなくなった。次の哨海（しょうかい）特務艇に乗船した。また、

鵜の木特別出張所だより

新年を迎えてのご挨拶

鵜の木地区町会連合会長　佐藤　大助

鵜の木地区の皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は地域の皆さまのご協力のもと、各種の連合会行事や青少対事業など、様々な取り組みを行うことができました。特に、高齢者の生きがいや仲間作りを目的とした「もみじの会」「鵜の木ふれあい元気塾」「千鳥ふれあい元気塾」は三年目を迎え、地域のふれあいの輪ができつつあります。昨年三月には、第一回の「高齢者ふれあいフェスタ」を開催することができ、四百人もの方々の参加をいただきました。

また、十月に行いました「第十三回鵜の木地区連合運動会」は雲ひとつない快晴のもと、九百四十四人の皆さんがさわやかな汗を流しました。

一方、青少対事業も恒例の行事のほか、「自転車教室」「小中学生が一緒に遊ぶ会」の新事業も加え、活発な活動をしております。ほかにも防犯などの様々な活動を行っていますが、このような活動を通して住みよい、生き生きとした鵜の木地区への発展が期待できます。

今後とも町会連合会へのご理解とお力添えをお願いし、この新しい年が皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念して新年のご挨拶といたします。

秋の受賞者

おめでとうございます。

（順不同・敬称略）

【平成十七年度大田区交通安全功労者】
鵜の木西町会　古河　幸彦

【平成十七年度東京都青少年健全育成功労者】
鵜の木三丁目町会　本橋　政昭

【平成十七年度東京都青少年育成協力者】
鵜の木三丁目町会　本橋　政昭

地域の行事

◆鵜の木三丁目町会どんど焼き
日時・一月八日（日）午前九時～
場所・多摩川河川敷

◆町会連合会新春懇親会
日時・一月二十日（金）午後六時三十分～八時三十分
場所・区民プラザ

鵜の木特別出張所管内の人口

男	10，717 人
女	11，393 人
計	22，110 人
世帯数	11，291 世帯

◇平成17年11月1日現在◇

編集後記

「四季のうた」より。七福神と宝の山を乗せた宝船。いい初夢を見るために、その絵を枕の下に忍ばせて寝ることがはやった。七福神は恵比寿、大黒、毘沙門天、弁天、福禄寿、寿老人、布袋の七人。このうち日本の神様は恵比寿様だけで、残る六人はみな舶来の方々だそうです。

編集長　池田　進太郎

☆情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。

【事務局】鵜の木特別出張所
電　話　3750－4241
FAX　3750－2418

大湊防備隊に移動の日が終戦。ふる里に復員。みんな優しかった。今もふる里は懐かしく、弟は亡くなったが兄妹も健在で、下の弟ははや六十歳の定年を迎えたという。（大久保　善二）

鵜の木三丁目町会

元日の朝、我が家では家族（四世代九名）揃っておせち料理、お雑煮を食べます。でもお正月を迎える前に大仕事が待っています。それは年末に行うお正月用の餅つきです。近年は幼児の孫三人は母親の実家に預け、家族全員寝る暇もないくらい頑張ります。大晦日には仕事も終わり、孫達も戻ってきて元旦を迎えるわけです。仕事のけじめもつき、新しく迎える一年を思って気の引き締まる思いがします。ふと自分の子どもの頃を思い出しますと、朝枕元に新しい下着と洋服が置いてあり、身に付けると子どもながらに緊張したものです。最近では、いつでもどこでもおいしいものが食べられ、きれいな洋服が着れ、季節感がなくなってきました。日本には、幸いに四季がありますので、我々は季節折々の行事、食べ物などを子ども達に伝えていきたいと思っております。（長久保　堅治）

鵜の木二丁目町会

平成十七年の国勢調査にあたり、私も調査員に任命されました。担当地域は私の住む一丁目八番の隣一丁目七番で、二丁目町会の北にある丘（通称「松山」）の南下一帯の地域でした。松山は子どもの頃の遊び場で、戦時中はその丘に横穴式防空壕があり、空襲が始まるとそこに避難したものです。

現在、穴はふさがれ、周りはだいぶ変わっていますが、「この辺に入口があったかな？」と、調査をしながら懐かしく思いました。当時は調布嶺町二丁目と称しましたが、四十年前に行った住所表示変更で、現在は鵜の木一丁目七番となり、私の住む八番も含めて表示とは異なる二丁目町会の会員となっています。そのため、私自身とまどうことがあります。（岡田　光弘）

鵜の木西町会

福島県伊達郡の農家生まれの私は、子どもの頃には田植えや稲刈りを手伝い、また養蚕もしており、桑葉つみも手伝っておりました。また母は生糸の機織をし、学校から帰ると、きれいな織物を見せてくださった。

我が家は古い茅葺屋根で、ツバメが軒先で飛び交い、子ども心にとても楽しかった。田舎の小学校ではピアノはなく、オルガンでした。みんなで手を叩きみんなで楽しく歌い、通学をしておりました。

しかしこの頃には日本の戦争も次第に激しく、国民に影響を与え、兵隊に出征された農家に私達生徒も手伝いをしておりました。この頃、村の村長さんより私に少年兵の志願を薦められ、結果は合格、まもなく海兵隊として激しく戦いましたが敗戦となり、涙を流してふる里に帰りました。（相澤　久蔵）

鵜の木東町会

白髪頭になった私は、第一のふるさとを思い出すのです。東京の下町、京橋槙町で生まれました。物心つく頃には、戦争が激しくなっており、表通りを軍人が軍刀を吊るして馬で闊歩していたのを今でも覚えております。私の母はパーキンソン病という難病にかかっており、歩くのも定かではなかったのですが、唯一の楽しみが活動写真でした。銀座劇場（？）へ姉が手を支え、その後を私がついていくのです。「愛染かつら」を観て帰路喫茶店に入ると、あるのは昆布茶だけだと言われたものです。

昭和十九年十二月、私達三人は縁故疎開で埼玉へ、父は徴用で石川島へと、生まれた家を離れました。昭和二十年一月二十七日、昼間の爆撃で破壊、九年余りのふるさとでした。（井原　倬夫）

新春詠

畠仕事に慣れぬと云いつつ
匂いたつきやえんどうのふる
里より来ぬ

雪の壁陽に崩れつつ雪解水
おとたて落ちぬ山の斜面を

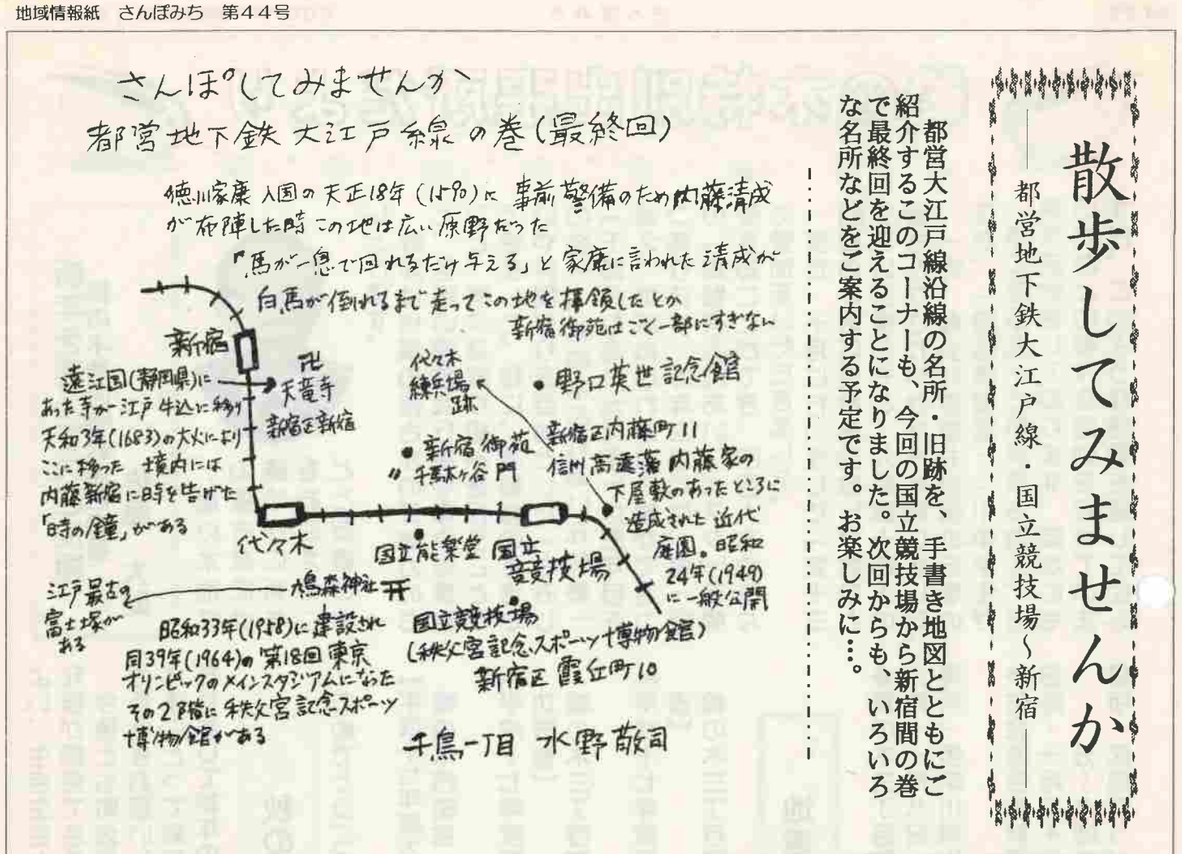
ゴミとして棄つる前にも再利
用考えて見ぬ子らを支えて

板倉　正子

散歩してみませんか

――都営地下鉄大江戸線・国立競技場～新宿――

都営大江戸線沿線の名所・旧跡を、手書き地図とともにご紹介するこのコーナーも、今回の国立競技場から新宿間の巻で最終回を迎えることになりました。次回からも、いろいろな名所などをご案内する予定です。お楽しみに…。



元禄十一年（一六九八）、日本橋と高井戸宿のほぼ中間に開設されたのが内藤新宿。品川、千住、板橋とともに江戸四宿の一つとして発展した。

田んぼの中に遊郭街という江戸の延長の新宿は、明治十八年（一八八五）に新宿駅が開設され、昭和二年（一九二七）の小田急、京王線開通を経て中心地が駅前寄りへ移り、昭和四年頃には銀座に次ぐ繁華街となった。（水野　敬司）

俳句

待望の日に花丸を初暦
ひとすじに選びしこの道
年新た

正座して十七文字の
筆はじめ

初写真犬も家族の貌をして
吊橋と白い灯台初景色
白い花こぼれて柊
あるを知る

岡本　吹ぶき

リレーエッセー

防犯部長として、町会活動のお手伝いを始めてから四半世紀になりました。それから二年後に、災害時における「町会の防災本部確保・町会会員の非難路確保」を目的に、市民消火隊を組織してくださいと区からの要請を受け、当時の会長から、防火部長・市民消火隊長を兼務でやって下さいとのことで、お受けしたのが二十三年前でした。当初からの五名を入れて現在隊員十三名で月一回程度の操法訓練、操法発表会、防災訓練、歳末夜警夜回り等の活動はしてきましたが、大したお手伝いをしてこなかった私が、この春副会長をお受けして改めて、町会の仕事の多さに驚きました。町会長のスケジュールはギッシリ埋まっているし、会計さんも毎日のように会計処理をしているし、婦人部は町会会報等の回覧物を班長・組長さんに配布依頼をしたり、その他の町会行事の裏方をしたりと、皆様が大変な思いをして町会活動を支えていることが分かりました。私も、今後体調の許す範囲で、副会長としてお手伝いをしていこうと思っています。

（鵜の木二丁目町会　平塚　陵章）